犬40頭を県が保護

飼育の老人、倒れ放置

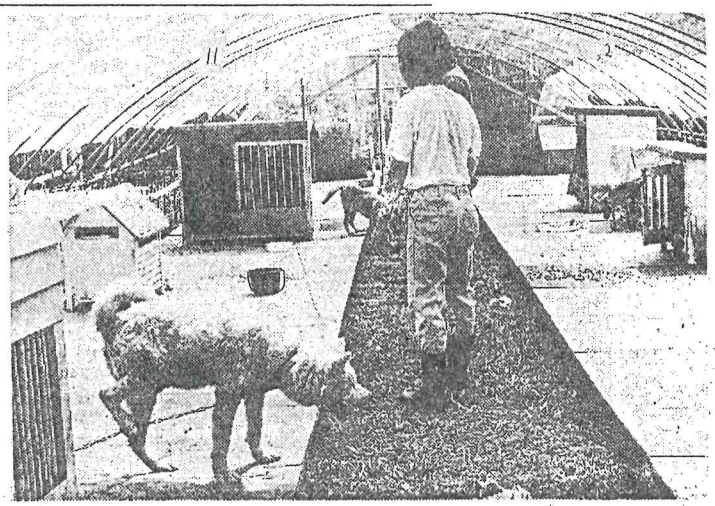
天理

天理市の山間部、苣原（ちしゃわら）町で、同所七五三、無職福島金七さん（七）が、預かり飼っていた捨て犬約四十頭が十八日までに、県保健環境部によって飼育・管理が十分でないとして、近くに新設した収容施設に移された。福島さんの高齢と病気で飼育ができなくなり、衛生面で問題化、病気の犬も続出したため、県が対応に乗り出した。県は病気治療が済み次第、福島さんを説得、犬の引き取り先を探したい意向だが、動物愛護週間を前に身勝手な飼い主たちのモラルが改めて問われている。

問われる飼い主のモラル

福島さんは、十五年前から国道25号線の現在の地に、バラック二棟を建設。捨て犬や捨て猫とともに住み、法人化を目的として「日本動物保護協会設立準備事務所」を設立、「捨てない、増やさない、殺さない、（飼えない所では）飼わない」の〝四ない運動〟を展開。百年計画で、野良犬や野良猫をなくす運動を進めてきた。

しかし、法人化の計画も遅々として進まず、最近は〝挫折〟状態に陥っていた。また、十年ほど前から犬の収容数が増え、保健所も指導。今年に入って、特に福島さんが神経痛で歩行困難となり、十分な飼育もできなくなった。このため約四十頭の犬が、汚物処理も不十分な犬舎に終日つながれ、食事も十分でない状態が続き、皮膚病がまん延する緊急事態に陥った。



簡易収容施設に移され、保護された犬（天理市苣原町で）

こうした実情を（社）日本動物福祉協会（本部・東京都港区）やアーク（大阪府能勢町、エリザベス・オリバー代表）ら動物愛護団体は、〝動物虐待〟ととらえ、「動物福祉」の観点から救済運動を始めた。同福祉協会は、現状を知らせる五千枚のはがきを出し、一万二千人の署名で、六月、県に改善を申し入れた。また、「アーク」も、九千通の手紙を郵送、これにこたえる形で、改善策を求める抗議文約四百通が県に届けられた。

県保健環境部は事態を重視、犬の応急治療と汚物処理など環境整備をすることで福島さんを説得。今月十、十一日の両日、近くの空き地に簡易収容施設を建設。三十九頭をここに移し、また、重病の三頭を動物病院に入院させるなど保護措置を講じた。県は食事を与え、治療を施すなど健康回復に努力する予定で、治療が終わり次第、福島さんを説得、引き取り先を探したいとしている。

これに対し、当の福島さんは「皆さんに迷惑をかけ申し訳ない。私が倒れても若い人が後を継いでくれる話もできつつある。前の飼い主が『飼えるようになった』と言って、引き取りにくるケースも多くなった」と、県サイドの引き取りあっせんには反対の意見を示している。

南佳策・県保護環境部次長は「飼い主の無責任がこんな結果を招いた。動物愛護の点から、行政もタッチすることになったが、良識のある飼い方をしてほしい。本当の動物愛護を考えるきっかけになれば」と話している。

ヘルメットを付けずミニバ

立場で意見を述べた。

した感もある。恒常的に進

長は「医療の密室性」を批

・コンセント）法理と最近の我が国の裁判例」のテーマで話した。

十九日は終末期医療をめぐる諸問題について話し合うシンポジウムがある。

ワラント被害の相談13件

主婦など各層から2千万円の高額も

株よりもうかるなどの触れ込みで売られ、一般投資家らに被害が続出しているワラントを中心とした証券被害を受け付ける「ワラン

けん銃隠

暴力団対策課と吉野署、中吉野署の合同捜査班は十八日、銃刀法違反と火薬類取締法違反の疑いで、大淀町下渕一六三五ノ六四、元暴力団山口組系黒誠会内安井組副組長の不動産業鳥越国昭容疑者(四二)を逮捕、同容疑の現行犯で、橿原市五条野町一三三〇ノ七一、清掃会社経営国中透次容疑者(四九)を逮捕し、国中容疑者の自宅からけん銃一丁と実包七発を発見、押収した。

同課などが同日午前八時四十分ごろ、鳥越容疑者と国中容疑者の自宅など計四カ所を捜索したところ、国中容疑者は自宅寝室の飾り棚の上に、包装紙でくるみ、

ライフさん　みやまひろあり

（167）